

ボツワナ共和国月報(2023年10月)

主な出来事

【外政】

- イスラエルとパレスチナの敵対行為を非難
- クワペ外務大臣、韓国を公式訪問
- ボツワナ代表团、中国・アフリカ協力フォーラム(FOCAC)高級実務者会合に出席
- ケレン環境・観光大臣、日本を訪問
- 韓国特使、マシシ大統領を表敬訪問
- ベルギー代表团、クワペ外務大臣を表敬訪問

【経済】

- ボツワナ政府とデビアス社間によるパートナーシップ合意署名
- 第5回ボツワナ銀行金融政策会合-政策金利は現状維持の2.65%-
- IMF世界経済見通し(10月)-2023年のボツワナ経済成長率を下方修正-
- 9月インフレ率-前月比で2.0%の上昇-
- 燃料価格改定-2か月連続の値上げ-
- 8月国際商品貿易統計-本年2月以来の貿易赤字-

【社会】

- 過去最悪の干ばつ-37,000人が飢餓の危機-
- 中等教育修了試験における不正行為
- ボツワナ国際科学技術大学が孔子学院を設立

【当館関連イベント】

- 第13回国際交流基金主催日本映画祭の開催
- 日本・ボツワナ・オンライン交流事業の開催(当館後援)

【外政】

- イスラエルとパレスチナの敵対行為を非難

9日、ボツワナ外務省は、イスラエル・パレスチナ間の敵対行為に対する非難声明を発表した。政府は声明を通し、国連憲章に明記されている紛争の平和的解決を求める立場を再確認し、さらにイスラエル・パレスチナ紛争の恒久的解決をもたらす二国家解決という、長年とってきた立場を改めて表明した。

- クワペ外務大臣、韓国を公式訪問

15日～20日、韓国の朴振(パク・チン)韓国外交部長官の招待を受け、クワペ外務大臣が韓国のソウルを公式訪問した。本訪問は、ボツワナ・韓国交樹立55周年に合わせたもので、クワペ大臣は二国間会談のほか、釜山市長との会談、浄水場視察、水資源保全技術の視察等を行った。

○ ボツワナ代表团、中国・アフリカ協力フォーラム(FOCAC)高級実務者会合に出席

23日、ンコロイ大使(ボツワナ外務省地域協力局長)率いるボツワナ代表团が、北京で開催されている中国・アフリカ協力フォーラム(FOCAC)の第16回高級実務者会合に出席した。本会議では、2021年にセネガルで開催された第8回FOCAC閣僚会議の成果の実施状況を確認し、2024年のFOCAC会議に向けた準備が進められた。

○ ケレン環境・観光大臣、日本を訪問

26日から、ケレン環境・観光大臣は日本を訪れ、ツーリズム・エキスポ・ジャパンに参加した。また、日本旅行業協会(JATA)との観光分野における協力の機会について協議した他、廃棄物管理技術の視察等を行った。

○ 韓国特使、マシシ大統領を表敬訪問

23日、崔泰源(チェ・テウオン)韓国大統領特使がマシシ大統領を表敬訪問し、2024年5月に予定されている韓国・アフリカ首脳会議への韓国大統領からマシシ大統領宛での招待状を手交した。大韓商工会議所の会頭及びSKホールディングスの会長でもある同特使は、16名の代表团を率いてボツワナを訪問した。

○ ベルギー代表团、クワペ外務大臣を表敬訪問

23日、ベルギー外務省経済利益局長を団長とするベルギー代表团がクワペ外務大臣を表敬訪問し、医薬品、ダイヤモンドの選鉱、デジタル化等の分野での協力の可能性や、査証免除について協議した。同代表团は、ハボローネで開催されたダイヤモンドビジネスに焦点を当てたFACETS会議にも出席した。

【経済】

○ ボツワナ政府とデビアス社によるパートナーシップ合意署名

9月30日、ボツワナ政府とデビアス社との間で、パートナーシップの合意文書が交わされ、モアヒ鉱物・エネルギー大臣が署名した。本件は、本年7月1日に発表された両パートナー間の基本合意を踏まえてのものであり、アル・クック・デビアス社最高経営責任者(CEO)は、ボツワナとデビアスのパートナーシップは、経済発展と成長を生み出す上で永続的な役割を果たし、世界中で高く評価されていると述べた。

○ 第5回ボツワナ銀行金融政策会合-政策金利は現状維持の2.65%-

26日、ボツワナ銀行は、本年5回目の金融政策会合において、前回会合に引き続き、政策金利(MoPR)を2.65%で現状維持することとした。同行によれば、地理的・経済的分断による国際商品価格の上昇や国内公共料金等管理価格がインフレ上昇要因となっている一方で、国内経済が本格稼働しておらず需要主導によるインフレは発生せず、国内及び世界経済の減退の可能性を指摘しており、こうした要因から、政策金利を現状維持することとした。

○ IMF世界経済見通し(10月)-2023年のボツワナ経済成長率を下方修正-

IMFは、今月発表した世界経済見通しにおいて、本年のボツワナの実質経済成長率を3.84%とし、本年4月(前回)の見通し3.74%から若干上方修正した。また、今後5年間の経済成長率についても上方修正した。なお、IMFは、本年8月に公表された第4条協議報告において、本年に入って下落した経済成長率は、2024年及び2025年に入るとダイヤモンドの価格と産出量の増加により徐々に回復し、4%を超えると見込んでいる。

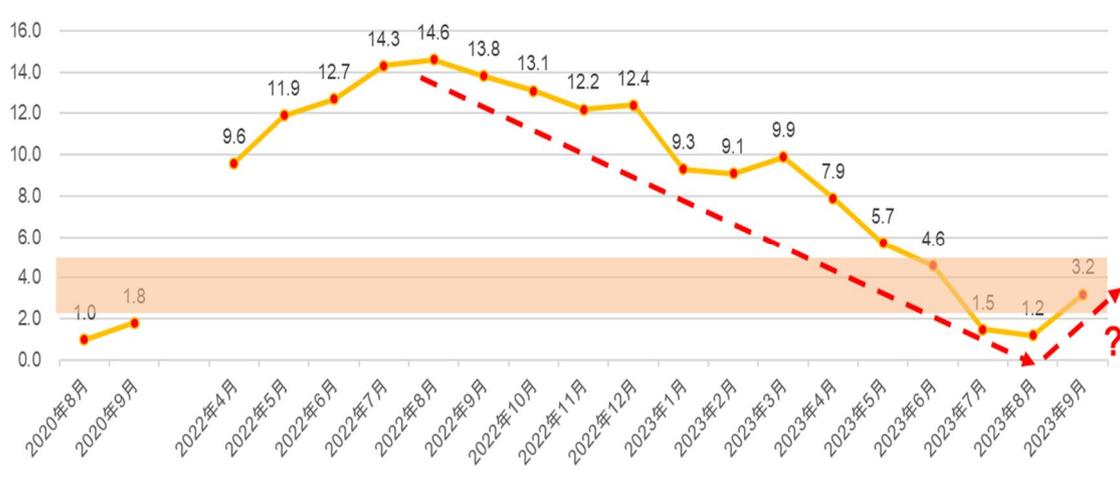
(図: GDP成長率見通し(上段: 本年10月、下段: 本年4月))

2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年
5.78% (6.43%)	3.84% (3.74%)	4.11% (4.26%)	4.35% (3.99%)	4.03% (3.97%)	3.99% (3.98%)	4.05% (3.96%)

○ 9月インフレ率-前月比で2.0%の上昇-

9月の年間インフレ率(前年同月比)は3.2%となり、前月の1.2%から2.0ポイント上昇した。当月の年間インフレ率に大きく寄与したのは、食品・非アルコール飲料(1.1%)と雑貨・サービス(0.7%)であった。他方、国内インフレ率を牽引してきた運輸部門は、本年5月以降、その寄与度が低下してきたが、消費者物価指数が、燃料小売価格の引上げ(後述)等により、対前月比で5.8%の上昇を見せている。

(図: 近年のインフレ率の推移)



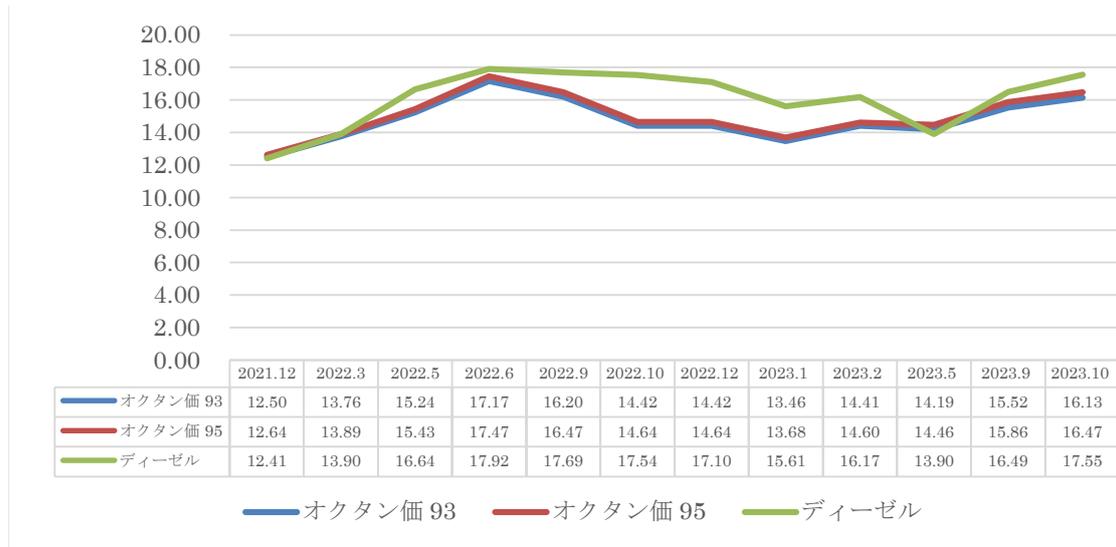
注: ボツワナ銀行中長期インフレ目標(3%から6%)

○ 燃料価格改定-2か月連続の値上げ-

24日、ボツワナ・エネルギー規制庁は、前月の国際原油価格及び製油価格の上昇を踏まえ、燃料小売価格を以下のとおり値上げ改定し、前月に引き続き価格引き上げとなった。新価格は翌日から施行。

品目	改定後の店頭小売価格（一部地域を除く）
ガソリン（オクタン価 93）	16.13 プラ/リットル
ガソリン（オクタン価 95）	16.47 プラ/リットル
ディーゼル	17.55 プラ/リットル

（図：最近の燃料小売価格の推移）



○ 8月国際商品貿易統計-本年2月以来の貿易赤字-

8月、輸入総額は69億9,510万プラとなり、前月の71億5,190万プラから2.2%減少した。他方、輸出総額は66億3,470万プラで、前月の76億8,550万プラから13.7%減少した。結果、今月の貿易収支は、3億6,040万プラの赤字となり、本年2月以来の赤字となった。要因としては、ダイヤモンド輸出額の大幅な減少（前月比）によるものである。他方、燃料の輸入額は微増（同）に留まっている。

(分野別内訳: 上位5分野(%))

	1位	2位	3位	4位	5位
輸入	燃料 21.2	食料品等 17.9	機械・電機 15.2	化学・ゴム製品 12.9	車両・運輸 8.0
輸出	ダイヤモンド 78.4	銅 9.6	機械・電機 5.0	塩・ソーダ灰 1.5	肉・肉製品 0.9

(国別内訳: 上位5か国(%))

	1位	2位	3位	4位	5位
輸入	南ア 70.3	カナダ 4.3	ナミビア 4.3	中国 2.6	インド 2.3
輸出	UAE 32.7	インド 14.2	ベルギー 12.6	南ア 12.4	中国 5.2

【社会】

○ 過去最悪の干ばつ-37,000人が飢餓の危機-

国連食糧農業機関(FAO)によると、ボツワナは、2023年の穀物収穫量が平均を下回る等、史上最悪の干ばつに直面しており、食糧不安が局地的に続いている。トウモロコシとソルガムを中心とする2023年主要穀物作付けは6月に終了した。2023年の穀物総生産量は7万3,000トンと推定され、5年平均を約15%下回るが、これは降雨量が平均より少なく、降雨時間の分布が不均一であるためだ。本年7月の政府発表によれば、少なくとも2024年3月までは37,000人近くが食糧支援を必要とする と推定されている。

○ 中等教育修了試験における不正行為

ダグラス・レツォラテベ教育大臣は、2023年度ボツワナ中等教育修了証(BGCSE)試験が、不正行為の疑惑を受けて2週間(10月30日まで)延期されたことを発表した。7科目の試験問題が漏洩し、10人の受験生の手に入った。レツォラテベ大臣は、試験の完全性を保つため、試験用紙の配布における厳重な手順を確保に全力を尽くすと述べた。

【当館関連イベント】

○ 第13回国際交流基金主催日本映画祭の開催

5日から7日の3日間、ハボローネ市内の映画館にて、第13回国際交流基金日本映画祭を開催した。初日のオープニング式典では、大森大使がスピーチを行い、招待客及び一般市民らの参加者を歓迎した。期間中、4作品が無料で上映され、ドラマ、アニメ、ファンタジー等の日本映画を楽しむ姿が見られた。

○ 日本・ボツワナ・オンライン交流事業の開催(当館後援)

17日、横浜市都筑区等主催「都筑・ボツワナ交流児童画展」の10周年を記念し、日本・ボツワナのオンライン交流事業がハボローネ市内の小学校にて開催された。横浜市立茅ヶ崎小学校とベン・テマ小学校は、絵画を通じた文化交流を行っており、両国の文化を互いに伝え合う貴重な機会となっている。日本側からは横浜市都筑区役所、都筑

多文化・青少年交流プラザ(つづきMYプラザ)、駐日ボツワナ共和国大使館が参加し、ボツワナ側からは、大森大使、JICAボツワナ支所、JICAボランティア等が出席し、両校3年生児童による歌やダンス、リコーダーの演奏が披露された。

(了)